

障害のある人への就労支援プロジェクト ～地域と障害のある人とのつながりをつくる～

教育・研究

課外活動

ボランティア

地域交流

代表者：人文学部社会科学科3年 高野 文佳

連携先

全国障害者問題研究会茨城支部（茨障研）、社会福祉法人木犀会まな一るもちの木・学びの作業所まな一る、株式会社ヴィオーラ、水戸市ダウン症児者親の会・つぼみ、茨城県ダウン症協会、つくばダウン症児者親の会、有限会社トーア乳業、水戸葵ライオンズクラブ、ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクト

顧問教員

土屋 和子（人文学部・講師）

参加者

高野 文佳（人文学部社会科学科3年）
箕輪 美紅（人文学部社会科学科3年）
會田 和樹（人文学部社会科学科2年）
佐藤 映理（人文学部社会科学科2年）
首藤 沙姫（人文学部社会科学科2年）
陣野 紗希（人文学部社会科学科2年）
海野 景太（人文学部社会科学科4年）
小野真結香（人文学部社会科学科4年）
河原井志穂子（人文学部社会科学科4年）
興野香奈江（人文学部社会科学科4年）
湖島 佑樹（人文学部社会科学科4年）
眞田 信政（人文学部社会科学科4年）
染谷 瞭太（人文学部社会科学科4年）
田村 早絵（人文学部社会科学科4年）

プロジェクトの概要

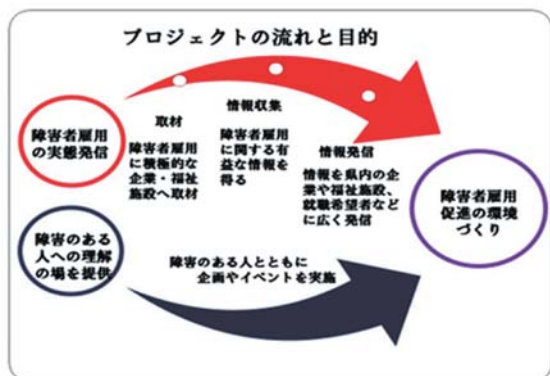
●プロジェクト立ち上げの背景

本プロジェクトを開始した平成24年度当

時、茨城県の企業が障害者雇用率を達成している割合は低く、全国ワースト3位であった。そこで、就職を希望する障害のある人と法定雇用率を満たしていない企業を結び付けることを目指し、「障害者雇用促進の環境づくり」を目的としたプロジェクトを立ち上げた。昨年度までに、私たちは「障害者雇用促進の環境づくり」を目的とし、「障害者雇用の実態発信」と「障害のある人への理解の場の提供」という2つのアプローチから活動した。

「障害者雇用の実態発信」では、インタビュー動画を4本制作・公開し、学習交流会の開催を3回行った。「障害のある人への理解の場の提供」では、障害のある人とその家族との懇談会や茨菀祭での共同出店、福祉施設利用者との交流といった、障害のある人との共同企画を実施した。その結果、昨年度までに障害のある人・家族、福祉施設、障害者団体、行政、企業、地域住民、学生と出会い、交流することができ、予想以上の協力を得たことによって、障害のある人の就労を支える人々のネットワークが形成できた。また、昨年度のプロジェクト活動を経て多くの方から意見をいただいた。学習交流会では、連携先の方から「水戸葵ライオンズクラブに障害者雇用に興味がある人がいるので、連携してみても」という提案があった。「学生地域参画プロジェクト」で優秀プロジェクトに選出された際には、審査員の方から「今後は他のプロジェクトとの連携も考えてみたらどうでしょう」というコメントを受けた。そこで今年度

は、昨年度の活動に対していただいた意見も踏まえて活動したいと考えている。



●目的

今年度は、「企業を対象にこれまでに制作した動画の上映を行い、学生に向けて勉強会の開催を行うことで情報発信を今まで以上にすること」、「勉強会の開催や障害のある人との共同企画、地域のイベントへの参加やボランティア活動を行うことで、障害のある人への理解の場を提供することができ、障害者雇用促進の環境づくりをすること」、「私たちのプロジェクト活動を通して、障害のある人の就労を支えている人々の連携を深めることを目的として、これまでの連携先との取り組みを継続・発展し、新しい連携をし活動を拡大すること」で、プロジェクト活動を発展させ、障害のある人の就労を支える人々のネットワークの拡大を目指す。

●プロジェクトの活動内容

「障害者雇用促進の環境づくり」という目的のために、「障害者雇用の実態発信」、「障害者理解の場の提供」という2つのアプローチから、以下の5つの活動を行った。

1. 水戸市内で長期的に障害者雇用を行っている、有限会社トーア乳業の経営者や障害のある従業員を取材し、インタビュー動画を制作・公開した。
2. 水戸葵ライオンズクラブと交流し、水戸

葵ライオンズクラブの定例会での報告を行った。また、今後、障害者雇用に向けた取り組みを共同で行うことになった。

3. 障害者関連法について学ぶ勉強会「イバダイ*デイズ～障害のある人とともに生きる～」を、学生と障害のある人の家族で計3回行った。
4. 障害のある人との共同企画において、学びの作業所まなーる、水戸市ダウン症児者親の会・つばみ、茨城県ダウン症協会、有限会社トーア乳業、株式会社ヴィオーラと茨苑祭での共同出店・パネルの展示、茨城県ダウン症協会と「ダウン症フォーラムin水戸」の開催、ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトとイベントの開催、学びの作業所まなーると共同企画を行った。
5. 茨城県内の各種地域イベントへの参加で私たちのプロジェクト活動を報告し、ボランティア活動では、交流活動を行った。

●活動日程

1. インタビュー動画制作・公開
 - 6月 取材先の選定
 - 6月18日 有限会社トーア乳業へ訪問。取材交渉及びインタビュー動画の制作依頼
 - 7月7日 工場内見学
 - 8月20日 有限会社トーア乳業への取材及び工場内撮影
 - 8月27日 有限会社トーア乳業で経営者1名、従業員2名のインタビュー撮影
 - 9月～11月 インタビュー動画編集及び推敲。
 - 11月6日 インタビュー動画公開に際し、承諾書の作成
 - 11月14,15日 茨苑祭でインタビュー動画公開

2. 水戸葵ライオンズクラブとの交流

- 8月21日 株式会社ヴィオーラの藤本会長へ共同企画実施の相談
- 9月24日 水戸葵ライオンズクラブ執行役員へ共同企画実施の依頼
- 10月9日 水戸葵ライオンズクラブ執行役員と水戸葵ライオンズクラブの定例会でのプロジェクト活動報告の打合せ
- 10月28日 水戸葵ライオンズクラブ定例会での活動報告

3. 障害者関連法について学ぶ勉強会「イバダイ*デイズ～障害のある人とともに生きる～」の開催

(1) 第1回勉強会

7月～8月 準備（企画、内容制作、会場の手配、宣伝）

8月17日 第1回勉強会実施
「同じ職場で働く仲間」
参加者：高校生、大学生

(2) 第2回勉強会

9月～10月 準備（企画、内容制作、会場の手配、宣伝）

10月17日 第2回勉強会実施
「障害のある人が安心して暮らせる社会」
参加者：茨城大学生、障害のある人の家族

(3) 第3回勉強会

11月～12月 準備（企画、内容制作、会場の手配、宣伝、講師との打ち合わせ）

12月16日 第3回勉強会実施
「障害者と出生前診断」
参加者：茨城大学生、障害のある人の家族

4. 障害のある人との共同企画

(1) 茨苑祭でのどら焼きやの出店・パネル展示

7月7日 有限会社トーア乳業へ共同企画の実施依頼

9月13日 水戸市ダウン症児者親の会・つばみへ茨苑祭での共同企画の実施依頼

10月13日 学びの作業所まなーると企画打ち合わせ

11月5日 学びの作業所まなーるとパネルの共同制作

11月6日 有限会社トーア乳業へ販売するどら焼きの発注

11月14.15日

茨苑祭でのどら焼きやの出店とパネル展示を行う

(2) 茨城県ダウン症協会主催「ダウン症フォーラム in 水戸 知っていますか? ダウン症を持つ人の生活と人生」の開催

8月8日 茨城県ダウン症協会から、茨城県ダウン症協会主催「ダウン症フォーラム in 水戸 知っていますか? ダウン症をもつ人の生活と人生」への参加依頼を受ける

9月13日 茨城県ダウン症協会役員会で打ち合わせ

11月22日 茨城県ダウン症協会主催「ダウン症フォーラム in 水戸 知っていますか? ダウン症をもつ人の生活と人生」での活動報告

(3) ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトとイベントの開催

9月1日 株式会社ヴィオーラの藤本昌宏社長と面会

9月8日 ステノグループの遠藤泰生会長と面会

10月7日 三の丸ホテルで行われた
ATTAKA知的障害者自立支
援プロジェクト発足式に参加、
私たちのプロジェクトの活動
報告を行う

10月19日 ATTAKA知的障害者自立支
援プロジェクト定例会出席
(毎月第3月曜日開催)

11月1日 「みとちゃん朝市」始動、参
加(毎週日曜日7:00~10:
00開催)

(4) 学びの作業所まな一るとの共同企画

10月13日 合同活動の依頼により、企画
打ち合わせ

11月5日 茨城大学ツアー第2弾実施

12月3日 ショッピングモールへの買い
物ツアーの計画立て

12月10日 ショッピングモールへの買い
物ツアー実施

5. 地域イベントへの参加(広報活動・活動
報告)・ボランティア活動

5月 「みと・まち情報館企画展」
でのパネル展示(広報活動)

7月22日 社会連携事業理事会での活動
報告(活動報告)

11月14日 2015秋 障がい者問題の研
究交流会での活動報告(活動
報告)

11月15日 ホームカミングデーでの活動
報告(活動報告)

11月29日 茨城県ダウン症協会クリスマ
ス会に参加(ボランティア)

12月5日 「まな一るとの木の文化祭
&オープンウェルフェア」に
参加(ボランティア)

●今年度主に活動した連携先の紹介

(1) 有限会社トーア乳業

茨城県水戸市千波町に本店がある、和菓子
製造を行っている企業である。平成26年に
障害者雇用優良企業として『厚生労働大臣
賞』を受賞した。従業員43名のうち8名が
障害のある人である。今回取材した障害のあ
る従業員鐘下賢一さんは、平成27年11月26
日に優秀勤労障害者として、県知事表彰を受
賞した。

(2) 水戸葵ライオンズクラブ

水戸市に6つあるライオンズクラブのうち
の1つである。1965年に誕生して以降、水
戸市内を中心に奉仕活動を目的として、活動
を行っている地域経営者団体である。障害の
ある人に向けた取り組みとして、水戸芸術館
での記念コンサートの開催や水戸ホーリー
ホックの試合観戦の企画などを行った。

(3) 水戸市ダウン症児者親の会・つぼみ

1992年7月4日に、水戸市ダウン症児者
親の会、つぼみがスタートした。発足当初は、
同じ保育所に通う親3人で、どの様に子ども
を受け入れて療育していくか、子育ての方法
について、同じ悩みを持つ者同士が集まり、
話し合いをしていた。現在、活動は活発化し、
会報誌「つぼみ」の発行をしている。他にも、
クリスマス会、茶話会の実施や勉強会等の実
施、茨城県立こども病院ボランティア、水戸
市療育センターでのボランティアも実施して
いる。現在の会員数は、52家族である。

(4) 社会福祉法人木犀会まな一るとの木の

学びの作業所まな一るとは、社会福祉法人木
犀会の運営する障害者生活介護施設「まな一
るとの木の木」に設置された、障害者総合支
援法に基づく自立訓練(生活訓練)事業所であ
り、茨城県唯一の学びの作業所である。利用

対象を、特別支援学校高等部を卒業した18歳の青年としている。

(5) 株式会社ヴィオーラ

茨城県見川町に本拠所在地を置くレンタルおしぼりの会社で、障がいのある人が40名以上働いており、平成26年には障害者雇用優良企業として『厚生労働大臣賞』を受賞した。平成27年11月26日には、障害者雇用に積極的に取り組む県内優良事業所として、県知事表彰を受賞した。

(6) ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクト

水戸市内12の企業経営者が立ち上げ、今年11月より活動を開始したプロジェクト。後援には水戸市を始め、水戸商工会議所等が、共済には水戸市保健福祉部障害福祉課等が携わり、官と民の連携がなされている。「障害者と共存できる水戸」をイベントを通してPRし、地域の活性化を目指している。イベントの運営を知的障害者に任せ、朝市の開催や朝粥の販売を行っている。

●連携の方法

私たちは連携先として様々な障害のある人、障害者雇用・障害者福祉に取り組む、特徴ある企業や福祉施設を取り上げたいと考えているが、対象者の選定の際はプライバシーの保護、人権擁護、企業秘密について、様々な配慮が求められる。そのため、全障研茨城支部等、地域連携先の専門的助言を得ながら活動している。

プロジェクトの成果報告

●プロジェクト活動の実施内容と成果

私たちは目的達成のため、「インタビュー動画の制作・公開」、「水戸葵ライオンズクラブとの交流」、「障害者関連法について学ぶ勉

強会『イバダイ*デイズ～障害のある人とともに生きる』の開催」、「障害のある人との共同企画の実施」、「地域イベントへの参加（広報活動・活動報告）・ボランティア活動」の5つの活動を行った。活動内容は、昨年度から継続して行うことができたもの、昨年度の内容から発展できたもの、今年度新しく実施することができたものに分かれる。

1. インタビュー動画の制作・公開

1) 実施内容

今年度、本プロジェクトでは障害者雇用に関するインタビュー動画の制作にあたって、有限会社トーア乳業へ6月18日、7月7日、8月20日、8月27日の計4回訪問した。トーア乳業は、昨年度に私たちのプロジェクトが制作した動画の取材協力先である、株式会社ヴィオーラの藤本昌宏社長から紹介を受け、今年度の連携に至った。

1回目の訪問では、今年度の障害者雇用に関する動画の制作にあたって、取材の依頼を行った。2回目は、トーア乳業の工場内の見学を行った。3回目には、トーア乳業全体に関する取材及び工場内部の撮影を行った。そして4回目は、トーア乳業の高梨専務と、障害のある従業員2名に対するインタビューを撮影した。

取材、及び動画の制作・公開の際は、プライバシー保護や人権擁護、企業秘密へ配慮した。そのため制作した動画の公開にあたり、出演者には動画の内容に関する承諾書を提出していただいた。トーア乳業に関するインタビュー動画は、昨年11月に行われた茨苑祭の会場で公開するとともに、プロジェクトのホームページ上で公開する準備を進めている。

2) 成果

積極的に障害者雇用を行っている企業インタビュー動画の制作は、本プロジェクトの立

ち上げ以降継続して行っており、今年度も経営者と障害のある従業員が出演する動画を有限会社トーア乳業にご協力いただき制作することができた。この動画の中では、障害のある従業員2名が自らの仕事について自信をもって話しており、トーア乳業の「障害のある人が健常者と対等に扱われ、長く継続して働くことができる」という強みが伝わる動画となった。

また茨苑祭では、トーア乳業で製造したどら焼きを販売すると同時に、会場内でトーア乳業に関する動画を公開した。この動画を通して、どら焼きが障害のある人の作った商品であることを来場者に伝えることができ、障害のある人が様々な職場で活躍していることを多くの人を知るきっかけを作れた。

トーア乳業は平成26年度に厚生労働大臣賞を受賞しているとともに、インタビューに登場する従業員の鐘下さんは、優秀勤労障害者として昨年11月に茨城県知事から表彰を受けた。トーア乳業のように、障害のある人が健常者と変わらずに働いていることをより多くの人に知ってもらうために、この動画は本プロジェクトのホームページ上での公開等を行いたいと考えており、現在準備をしている。

3) 取材先データ

民間企業…1社

有限会社トーア乳業

編集作業は購入した動画編集ソフトを用いて、場面や音声の分割や接合、字幕の制作を行った。

【制作した動画】

「障害のある人が長く働ける職場～有限会社トーア乳業の取り組み～」(3分30秒)

出演者

有限会社トーア乳業

専務・取締役 高梨 氏

障害のある従業員 鐘下 氏

宮田 氏



どら焼きの製造工程



インタビュー動画撮影時の様子



トーア乳業(外観)

2. 水戸葵ライオンズクラブとの交流

1) 実施内容

昨年度の学習交流会の際に、株式会社ヴィオーラの藤本昌宏社長から、水戸葵ライオンズクラブの紹介を受けた。そこで今年度、私たちは水戸葵ライオンズクラブと連携し、交流を行った。

まず、水戸葵ライオンズクラブと共同企画

を行いたいと思い、8月21日に水戸葵ライオンズクラブ幹事へ面会し、共同企画の実施依頼の相談をした。その際、「水戸葵ライオンズクラブの定例会で何かやってみてはどうか」という提案を受けた。

次に、9月24日に水戸葵ライオンズクラブの会長を始めとする執行役員へ定例会での企画実施の依頼をし、定例会で私たちのプロジェクトの活動報告をすることとなった。

そして、10月9日の打ち合わせを経て、10月28日に定例会で企業経営者に向けて、私たちのプロジェクトの活動報告とこれまでに制作したインタビュー動画の公開をした。また、今後のプロジェクト活動における共同企画の実施の協力依頼をした。

2) 成果

水戸葵ライオンズクラブの定例会で、プロジェクト活動報告とこれまでに制作した動画を公開することで、本プロジェクトの立ち上げ以来、初めて経営者に向けて障害者雇用の実態発信ができた。その結果、企業経営者と関わりを持つことができた。

経営者からは「今後のご活躍に期待しています、何かご協力できればうれしいです。」といった感想をいただいた。

今後は立ち上げ目的であった「就職を希望する障害のある人と法定雇用率を満たしていない企業を結び付けることを目指す」ことに結びつけていきたいと考えており、来年度の学習交流会の共同開催に向けて、企画立ち上げの準備を行っている。

3. 障害者関連法について学ぶ勉強会「イバダイ*デイズ～障害のある人とともに生きる～」の開催

1) 実施内容

昨年度の障害のある人の家族との懇談会は好評であったが、規模が小さかったという課



水戸葵ライオンズクラブ定例会での活動報告の様子

題が残った。そこで今年度は障害のある人の家族に加えて高校生・大学生に向けた情報発信をするため、障害者関連法について学ぶ勉強会「イバダイデイズ～障害のある人と共に生きる～」を3回開催した。

① 第1回勉強会「同じ職場で働く仲間」

8月17日に茨城大学図書館で障害者雇用促進法を取り上げ「同じ職場で働く仲間」をテーマに高校生・大学生が意見交換を行った。障害者が不利益を受けた事例についてディスカッションと〇×クイズを交えながら法制度とこれから行われる改正を学び、障害のある人と共に働く未来を考えた。後半にはプロジェクト活動の紹介を行った。



障害者雇用促進法について勉強する様子

たとえばこんな場合は...?

目が見えない、耳が聞こえないことを理由に学校の教員になることができなかった

車いす利用者が他の従業員と同じデスクワークをしているのに、他の従業員より給料が少ない



グループディスカッションの様子



② 第2回勉強会「障害のある人が安心して暮らせる社会」

10月17日に茨城大学人文学部棟で障害者虐待防止法を取り上げ「障害のある人が安心して暮らせる社会」をテーマに大学生と障害のある人の家族がグループに分かれディスカッションを行った。実際に障害のある人が受けた不利益な扱いを取り上げて法に定められている虐待の具体的なケース・不利益を受けた障害者に対する措置を学び、通報を通して自分たちが不利益を受けている障害のある人を救うことができることを周知した。ディスカッションでは加害者が虐待をしてしまう原因、虐待が起こる背景を加害者・被害者・第三者のそれぞれの視点から考察し、グループごとに配布した画用紙にそれぞれの結論をまとめ発表した。



③ 第3回勉強会「障害者と出生前診断」

12月16日に茨城大学共通教育棟2号館で障害者差別解消法から発展して「障害者と出生前診断」をテーマに、障害のある人の家族と大学生が参加し、前半では参加者同士のグループディスカッションを行い、出生前診断に関する新聞記事についてグループごとに意見交換した。後半では東都医療大学ヒューマンケア学部教授百溪英一様に出生前診断とそ

の報道による障害者への影響について講演を行っていただいた。



講演の様子



2) 成果

障害者関連法をテーマとした勉強会を、今年度新しく企画し3回継続して開催することができた。勉強会には高校生・大学生・障害のある人の家族、総勢約120名と多くの方に参加していただき、障害のある人の家族と学生との交流の場を設けることができた。

参加してくださった茨城県ダウン症協会、水戸市ダウン症児者親の会・つぼみの方から「学生の素直な気持ちが聞けた」、「こどもと同世代の学生たちと意見を交換する機会を頂き、有意義な時間を過ごすことができた」、「たくさんの学生が参加し私たちの話を聞いてくれたことに感謝します」と感想を頂き、当事者の情報発信の場を提供することができ

た。

また、参加した高校生・大学生からも「今まで障害のある人の実態を知らなかったが、勉強会に参加して自分にも関係があり無関心ではいけないということに気が付いた」、

「実際のお話を聞くことで障害を持つ方々の存在を身近に感じた」と感想を頂き、障害のある人障害のある人と疎遠であった学生の障害者理解に対する関心を高めることができた。

勉強会には教育学部・工学部・理学部など幅広い学生が参加し、プロジェクト活動に興味をもってもらうことができた。

4. 障害のある人との共同企画の実施

(1) 茨苑祭、水戸市ダウン症児者親の会・つぼみ、有限会社トーア乳業とどら焼きやの出店、学びの作業所まな一、茨城県ダウン症協会、株式会社ヴィオーラ、有限会社トーア乳業の制作したパネルの展示

1) 実施内容

障害のある人への理解の場を提供するため、トーア乳業、学びの作業所まな一、株式会社ヴィオーラ、水戸市ダウン症児者親の会つぼみ、茨城県ダウン症協会と協力して茨苑祭で障害のある人との共同企画で「どら焼き屋」を出店した。

企画内容は、どら焼きの販売・団体紹介のパネル展示・トーア乳業紹介動画、株式会社ヴィオーラ紹介動画、みとちゃんダンス動画の公開である。

9月13日の茨城県ダウン症協会の役員会に参加し、企画当日に展示するためのパネルをお借りした。また、同日に水戸市ダウン症児者親の会つぼみに企画当日の販売の協力を依頼し、さらに展示するための写真をお借りした。

10月13日に学びの作業所まな一と茨苑祭当日に展示するパネル製作の打ち合わせを行った。その後11月5日にパネルを共同制

作した。

11月6日にトーア乳業を訪問し、茨苑祭当日に販売するどら焼きの種類と個数を決定した。また、インタビュー動画公開のために承諾書を作成した。

11月10日に株式会社ヴィオーラを訪問し、私たちが制作したパネルの内容を確認していただいた。

茨苑祭当日は、トーア乳業で製造されたどら焼きを仕入れ、水戸市ダウン症児者親の会つばみと協力してどら焼きを販売した。また、茨城県ダウン症協会、学びの作業所まな一、トーア乳業からお借りしたパネルや写真、私たちのプロジェクト活動を紹介するパネル、イバダイ*デイズに関するパネルを展示した。

2) 成果

2日間合計の来場者数は263名で、どら焼きは400個を完売した。

今年度は取材したトーア乳業で製造しているどら焼きの販売とともに、トーア乳業のインタビュー動画を公開することで、障害のある人が商品を製造し職場で活躍していることを来場者に伝えることができた。

また、茨城県ダウン症協会、学びの作業所まな一、トーア乳業のパネルや写真を展示することで、それぞれの団体や企業についての情報を発信することができた。来場者からは、「写真が貼ってあったり、活動が紹介されていて印象的だった」「私も、障害のある人がより生きやすい社会をつくることに貢献していきたい」と感想を得た。

本プロジェクトも、活動全体の紹介や勉強会「イバダイ*デイズ」を紹介するパネルの展示を行うことで、障害者理解を広めるための活動の周知につながった。来場者からは「イバダイデイズのような講義に参加する人がもっと増えるべきだと感じた」「自分も講演や活動に参加していきたい」と感想を得た。



来場者にパネル展示で情報を発信する様子



共同出展の様子

(2) 茨城県ダウン症協会主催「ダウン症フォーラム in 水戸 知っていますか？ダウン症をもつ人の生活と人生」の開催

1) 実施内容

11月22日(日)に、茨城県ダウン症協会主催の「ダウン症フォーラムin水戸 知っていますか？ダウン症をもつ人の生活と人生」に参加した。

8月8日(土)に茨城県ダウン症協会からダウン症フォーラムへの参加依頼の連絡を受けた。依頼を受けて私たちは検討を始め、9月にはダウン症フォーラムへの参加を決定した。

ダウン症フォーラムの開催にあたり、私たちは9月13日(日)のダウン症協会の役員会から参加した。役員会では、ダウン症フォーラム当日のスケジュール、役割等を話し合った。

ダウン症フォーラム当日は、私たちは活動報告と、会場準備、受付、保育のボランティアを行った。ダウン症フォーラムでは、①本

人発表・インタビュー、②茨城大学生のインタビュー、③こども病院ボランティア活動報告、④講演「生まれてきてよかった。知っていますか、ダウン症をもつ人の生活と人生」、⑤ヒップホップダンス発表が行われた。私たちは10分間の時間をいただき、これまでのプロジェクト活動の中で、茨城県ダウン症協会と一緒にやってきた活動の報告を行った。

2) 成果

昨年度は、私達から茨城県ダウン症協会に対して本プロジェクトの活動への協力の依頼を行っていたが、私たちの活動を評価していただけて、今年度は茨城県ダウン症協会のほうから私たちにダウン症フォーラムへの参加依頼がきた。その結果、今年度も連携を継続して活動を行うことができた。またダウン症フォーラムでは、参加者に私たちの活動周知ができた。ダウン症フォーラムの参加者からは、「学生による活動が、地域で続いていること、団体と連携して頑張っているのが嬉しく感じました。」「若い学生さんが、このような取り組みをしているのをはじめて知りました。障害をもつ人と、そうでない人が、協力して、住めるまちづくりを望みます。」という感想をいただいた。



ダウン症フォーラムでの活動報告の様子

(3) ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトとイベントの開催

1) 実施内容

今年度新しく、ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトと連携し、イベントの開催を行った。

ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクト発起人である、株式会社ヴィオーラの藤本社長と9月1日に、株式会社プロスパー・ステノグループの遠藤会長と9月8日に面会し、ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトについてお話を伺い、参加することとなった。

私たちは、10月7日に行われたATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトの発足式や月に一回行われる運営会議にも参加し、準備段階から携わっている。

現在行われているATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトの活動内容は、「みとちゃん朝市」、「みとちゃん朝粥 - 世界の朝 -」で、主に海産物や野菜、果物の販売や朝粥の販売を障害のある人とともに行っている。活動当日は、障害のある人が積極的にイベントへ活動する姿が見られ、活気に溢れていた。

また、株式会社伊勢基本社、ステノグループ、株式会社ファーストトラスト、茨城交通、ライフ総合研究所、水戸証券、環境ウィザード、中川学園調理技術専門学校、水戸ヤクルト販売、水戸農業共同組合、株式会社ヴィオーラ、社会福祉法人ユーアイ村が発起人企業となっている。後援には水戸市を始めとして、水戸商工会議所、水戸観光協会、茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合水戸支部、茨城新聞・茨城放送があり、水戸市産業経済部観光課、水戸市保健福祉部障害福祉課も共催している。官と民の連携がなされているプロジェクトである。

2) 成果

ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトの活動を通して、私たちのプロジェクト活

動に興味・関心を持ってくださる人が増えた。私たちのプロジェクトと目的と方向性が似ており、企業経営者や社会福祉法人、行政などが一緒に行うプロジェクトと初めて連携し、社会福祉法人や企業等複数の団体と一斉に連携するといった、今までにない連携ができた。運営会議へ参加できたことも大きく、学生ならではの発想や視点でイベント内容等について提案をしている。

この活動は開始したばかりであるため、今後も参加して盛り上げていきたい。



「みとちゃん朝市」、「みとちゃん朝粥」の様子

(4) 学びの作業所まな一るとの共同企画

1) 実施内容

昨年度、本プロジェクトが企画した、学びの作業所まな一る利用者との「茨城大学ツアー」が、利用者やその家族、支援員の皆様から大変好評だった。そのため今年度は、支援員の皆様から共同企画の実施依頼を受け、学びの作業所まな一る利用者と「茨城大学ツアー第2弾」、「ショッピングモールへの買

い物ツアー」を企画・実施した。その内容を以下に報告する。

「茨城大学ツアー第2弾」では、施設見学、学食での昼食、茨苑祭の展示物の共同制作、大学の講義への参加を行った。展示物の共同制作では、まな一るから借用した写真に添えるコメントを利用者に書いてもらい、模造紙に写真とコメントシートを貼りつけた。大学の講義への参加では、プロジェクトの指導教員が行っている講義を見学し、受講している学生の前で一人ずつ自己紹介をした。そして実際の講義を15分程度受講した。



茨城大学ツアー第2弾の様子

「ショッピングモールへの買い物ツアー」では、買い物ツアーの実施に先立ち、利用者とメンバーの親睦を深めることを目的とし茨城大学にて買い物ツアーの計画を立てた。計画立ての際は、まな一る利用者9名とプロジェクトメンバー8名を3つのグループに分け、ワークシートを用いてどこで何をかうのか、昼食はどこで食べるか等を決めた。買い物ツアーは、水戸内原イオンにて行った。当日は、計画の際のグループごとに行動し、予算範囲内で洋服や雑貨等の買い物をした。



ショッピングモールへの買い物ツアーの計画、実施の様子

2) 成果

今年度は、共同企画の依頼をまな一るからいただき、まな一ると継続して連携出来ただけでなく活動の幅をさらに広げることができた。

「茨城大学ツアー第2弾」に対して、利用者と支援員の皆様から感想をいただくことが出来た。利用者からは「3色そばろ丼がおいしかったです、写真を貼りました」「楽しかった」等、支援員の皆様からは「一緒に作業したりお昼を食べたりし、皆いきいきとしていました」「今後も交流を楽しみにしています」等といった感想をいただいた。

「ショッピングモールへの買い物ツアー」に対しても、利用者と支援員の皆様から感想をいただくことが出来た。利用者からは、「洋服とマフラーを買った、茨大生ともう一回（外出に）行きたい」「お洋服とか一緒に買ったのが嬉しかった」等、支援員の皆様からは「利用者が楽しそうに活動に参加している姿を見られてよかったです」「今後も障害の有無に関係なく同世代の友だちとして学生の皆さんと関わらせていただければ幸いです」等といった感想をいただいた。

2つの共同企画を通して、「障害の有無による隔たりを超えて、同じ青年期を過ごす人間として日々の活動を学生と共にしたい」という、まな一るからの依頼に応えることができた。

5. 地域イベントへの参加（広報活動・活動報告）・ボランティア活動

1) 実施内容

地域イベントへの参加は以下の4つを行った。

- ① 5月には茨城新聞社の開設した「みと・まち情報館企画展」で、プロジェクト活動内容のパネルを展示した。
- ② 7月22日に社会連携センターから要請を受けて、社会連携事業理事会での活動報告を行った。

③11月14日の「2015秋 障がい者問題の研究交流会」での活動報告は障害のある人の家族や教育関係者に向けて行った。

④11月15日のホームカミングデーでは茨城大学総務課総務係から要請を受けて、大学関係者及び大学OBへ向けて活動報告を行った。



水戸市ダウン症児者親の会・つぼみのクリスマス会でのボランティアの様子

ボランティア活動は、障害者団体や福祉施設と交流を持ち、障害のある人と関わりを持った。

①11月29日に水戸市ダウン症児者親の会・つぼみのクリスマス会でボランティアをした。

②12月5日に「まな一るもちの木 文化祭 & オープンウェルフェア」で利用者と一緒に模擬店を行うボランティアを行った。

2) 成果

私たちは地域イベントへの参加、ボランティア活動を計6回行った。そのうち4回、活動報告をする場があり、大きな反響を呼んだ。活動報告は継続した連携先からの依頼だけでなく茨城大学からの依頼もあり、学生地域参画プロジェクトの代表として活動報告を行った。茨苑祭期間中に行われた「ホームカミングデー」では、私たちの活動報告を聞き、茨苑祭での出店企画に足を運んでくださる人

も見受けられた。今年度は、連携先との交流に加え、活動報告によって地域住民など様々な人に私たちの活動を周知することができた。

●今年度の成果と今後の展望

1年間の活動を通して、障害のある人の就労を支えるネットワークを拡大することができた。「インタビュー動画の制作・公開」では、昨年度までの活動を継続して、今年度も障害者雇用を積極的に行う企業取材した動画を制作・公開することができた。

「茨苑祭での共同出店」、「まな一るとの共同企画」では、昨年度の活動を継続するだけでなく、活動内容を発展させた。また、これまでは私たちが連携先に企画を依頼することで活動を実現してきたが、今年度は「ダウン症フォーラムへの参加」や「まな一るとの共同企画」といった、連携先から企画の依頼を受ける活動も行った。長期的に活動を行うことで、連携先と信頼関係ができ、私たちの活動に自信を持つことができた。

水戸葵ライオンズクラブとの交流、勉強会の開催、ATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトとのイベントの開催は、今年度から新しく活動を始め、経営者や学生など、昨年度までの関わりに加えて多くの人と関わることもできた。

連携先から意見・指導をいただいたことに謝意を表し、今後は水戸葵ライオンズクラブとの共同企画の実施やATTAKA知的障害者自立支援プロジェクトとのイベントの開催など、今年度得た関わりも継続し活動に取り組み、障害のある人が働きやすい環境づくりを目指していきたい。